

舟之乃下具

庫文閣内			
毛	二	和	
函	九	書	
四	七		
架	八	類	
	冊	號	
三 (三 万)			

内閣文庫			
番號	和	29078	
冊數	3 (3)		
函號	175	57	



越の志しき巻三

教
部
省
文
庫
射

圖
書
局
文
庫

水
郡
倉
庫
三十一村

大
袋
庄
三十一村
浅
井
庄
五村
二
上
庄
八村
安
怒
庄
三十一村
八
代
庄
三十一村

内一〇三六〇號

法
武
庄
八村

東
茶
郷
三十一村

羊
村
庄
九村

南
条
保
内
三十一村

上
ノ
庄
二十四村

往古氷見郡内の名ありて今の古國府より氷見の迄能
洲の端より郡内より中古是也射水郡の内と云ふ

のり名ありし 宣る 神祀も 少見の意 村里の
 山村の人 少見の由を 郡内を とも とも とも とも
 火見を 神に 火見の 申ふ 火を 忌り 火見の 路 路

式内神社

射水神社

二上庄二上村

社僧 養光寺

道神社

大袋庄作道村

神職 宮川淡路寺

物部神社

二上庄東海老坂村

梯神社

東条郷串田村

神職

山本義作

磯部神社

未詳

箭代神社

八代庄北八代村

神職

高沢河内

氣多神社

二上庄国分村

神職

尾崎丹後

合十四社

越の志と草巻三

内一〇三六〇號

宮永正運編集



古城

正山の傍より毒山より

是古御... 正山の傍より毒山より
 西郷左衛門の如天正年中依る如所屬し如所志づく居城ありに
 其後正山の傍に造りし也神保左衛門氏者又増山の城より
 引揚しし... 正山の傍より毒山より
 天正四年冬長三年まじ 微妙公印年の間湯居候なりし
 却九折八折なりし... 正山の傍より毒山より

かゝれ又あま集巻二上山の長新あり

赤持郷

すめ神のまをまの山の造谷の崎のありまよあさ
あきよ

かくも色ぬか造谷 須藤麻山も二うも山は造谷しと
さゆりくあま集よ

赤持郷

谷のまらりゆきと登衣もまの山に柱れま
けい谷ふくむい人治はくくはあまあ思ま子の人
身代供の事もあましと行基菩薩のまらり
其事とあまのいふしあ思ま子後段の社ありと哉

中の玉中村里山部と一字も残され供あま
し祝すりのいふ又鷲懸鷹の都いもまは
しとあ一カ葉集巻十のよ

造谷乃二上山 シラタニノフタカミヤニ 鷲曾子 ワシソコ 産跡 ウムトイフ
指羽尔毛君之 サシハニモトキニ 赤持郷 ワシソコ 産跡 ウムトイフ

又一の宮あ高る西北の谷海まきうい間を造谷と
二上山より遠く北の方へ山を造るらし後まらり
探りまらりらまら

二上山 養老寺 真言宗

養老寺ハ園山の寺号ナリハハ(衡)慈尊院本尊
堂光院ニテ寺あり養老年中開闢ナリ昔ハ三千坊の
大伽藍ナリナリ代々の兵火ニ傾廢セリト
瑞重公の時社領寺尾登山林ハ山号進あり

一ノ宮社 二上山一宮村あり 真言宗 慶高寺

養老年中の開闢ナリハハ(中)古兵火ニ傾廢ナリハハ(僅)々
寺領ハ強クハハ(慶)長二年寺領宮林 瑞龍ニナリ

浄土道ニハ社拜殿ハ浄再建ハ正保二年 徽妣公ナリ
浄建ニシテ年々浄修度ありハハ(伏)木浦海岸ナリハハ(西)北方山
行々寺あり増ぬ廣クハハ(道)々々や閑寂ノ地ニ
遠乃蒼海ニを遊の舟航ニハハ(和)臨の兵あり

一田畠の入口 南条保内あり

下田あり村上田村ありお連ナリハハ(山)間村ハハ(泉)村ハハ(海)
邊ハハ(田)畠の入口ハハ(田)畠の入口ハハ(田)畠の入口
ありハハ(田)畠の入口ハハ(田)畠の入口ハハ(田)畠の入口

又多湖の入りし

一 多胡白藤 同

下田の村一向宗白藤山光西寺の寺ありては古乃
藤の種を種を傳ひてとてありて多胡の種
しよありては

拾遺

多胡の種の産之白く藤の種を種を傳ひてとてありて多胡の種

人磨

玉葉

藤原宗泰

沖波風吹く藤の種を種を傳ひてとてありて多胡の種

續修拾遺

前右衛門督殿志

早苗のたの浦へよみゆやも

註行

寛惠法師

以るてありては

一 西田園泰寺 南条保久西田村あり

園泰寺の禪法洞流本山とては

元亨正中の比開山清洗心師や人皇九十五代後醍醐天皇

より勅願の御書ありては諸法洞流轉衣出世の事

瑞龍公より津幸進 庄位地も外田地山林等
手紙

有磯海

二上庄の海を村より 伏木岩等まきの浦より伝つた
有磯貝類は貝の三月より三月にまで 氷見より八代の
庄阿尾越田との間の濱、場多し 氷見の浦より
伝つたより七ヶ年 氷見の上下を磯箱入り 海も
伝つたより七ヶ年の事あり

有磯集

有磯のよもひは 有磯海のものあり

有磯集

よこくま

いそがしき心 有磯のものをいそがしき心
日

有磯のよもひは 有磯海のものあり
日

有磯集

有磯のよもひは 有磯海のものあり
日

紀行

寛文十一年

治見の志七由余保内山石上村に往昔旅ありて一有坂あり

一有坂の渡

治見の志七由余保内山石上村に往昔旅ありて一有坂あり
渡りていししけあり是次ありて埋りてとて治見の
内伊勢所とてありてありてあり

一休本の山石等のとりて山石ありて石の出入りあり
海陸あり海岸ありて渡りて津波の普清も所ありてあり

舟ありてありてしけ外あり石の出入りありてあり

二はくありてありてあり

一甲山石 曰保村太田村領あり

山石等のありてありてありてありてありてあり
三十四間ありてありてあり

一女岩 曰領あり

ありてありてありてありてありてありてあり

周回山ありてありてあり

一治谷の谷 曰領あり

二上山の傍きあがり、前も記しりよけ谷に二上の
奥より同じ山脈なり、山岳のぬ洋際より谷のふさ
三十所もあがりけ向七のり田とみわりの休きく寝ん
万葉集

家持卿

歌中の二上山の聲なきづやの谷よ、鳥鳴なり

一紅葉川 二上唐国を打つる

山岳のぬ谷間より水の流も細くきりしけ春
古来名所なり

一書に云昔橋原左大臣より侍 尊屋孫命の流る歌中
古国府山つらき西方はわ岐の如き家伝も一女ありて十三年
初秋紅葉を詠む

奥山より紅葉をわけて入月を瑞々ほむ鏡し

是四條院の御宇也僧ありてその歌と家命の記持を

二系中成言公忠卿の述りて扇聞のりて聞

短冊の下に花葉内侍と記すとも宣命の御文に花葉

内侍紅葉の方と書りて聖二月節に召き女主人に

見ると取らぬと辞しぬるに死をとりし墓

かに紅葉の塚より下塚の下の小流を紅葉川といふ

又武尊上野の国沼田の死の領え沼田五部為原家守の

俵倉を赤御十一代の孫し其女赤珠姫といふ和歌を

好むとて是に

いとよき木の白のむも死に逢ふ先をばいづり

龍田山紅葉といふ一月の端のいづり境なりと云

後伏見院高麗といふ赤も津製と稱す

^{カシケ}上野や沼田のさくふかふ珠のありさ流り知は

らぬ紅葉の館のいづり暗過と云はるずといふ

一雨を南条保双太田村領より

海際まゝ山の方両方とも高七尺許の山石をさし上

長之間斗幅二尺をわりの大岩をそぎし其下を雨降

らしし里人の云ふ治年中某經奥列、そのころ

時け降るべく通るありしは、依り大雨降るべし

并慶雨をいには指しし、利直の雨をい

いひたりし

一伏木村よりが見ましの間なくれつゝ京都海

又山よりいへる處に、
洞舟も山を仰ぎや、
小島海岸に、
少見を下の方、
又と何れ、
但陸路、
難路あり

唐島弁天

少見の所乃中、
布能湖あり

は川より舟を漕ぎ、
孤島に、
小岩をつたへ、
樹木あり、
觀世音を安置し、
四望殊なり、
指と連るが如し、
岩あり、
つたい行、
海きづ、
赤道、
三三所、
東方あり、
海中の、
島、
弁天の祠あり、
傍に、
海、
山、
祠の、
海、
上、

場々竹ノ森ヲ訪テ一ノ高クニ古来より一ノ
うし一ノ事ト不聞シ 国君陽光公の御宇ニ

茶臼の海や浦山かけくあかたのなましうの何ぬ浪のたふ

一 衣冠の免樹 キヌカサ 二上庄古府村ニあり

ハ備宮の林ありて木の圍り三四尺長に同程し

原美純奥列ノありて一ノ時トナリ一ノ木ヲ家まで
くぬし一ノ木ヲ計がし一ノ巨ノ木ニたす

一 布流の丸山 南条保内布流村ニあり

中納言家持御執中任ふの時常々丸山ニ遊ビたま

山ハ丘也やむし一ノ布流湖にたまたま通し一ノ丘

山の二十二ノ名ニありて一ノ長百ニテるヤ幅

ナカセらとありて一ノ山麓ニ水影大明神の社あり

家持トを祀ひしと一ノ碑と建し一ノ中申と

後世ヲ傳へて永く地を癒しナリ申とをせりし

大伴家持御遊覽之地 碑の正面

吾友服升信、越中高陵人、与余同
里、博学好古、聚道不聚財、頗能和
歌、学萬葉、侑居近布勢之湖、在昔中
叙言大伴家持、嘗牧是邦之日、屢
遊覽地也、事詳載史、大傳及萬葉
集中、亟賞湖之勝景、而今所見方
一里許、淺淺不称所言、盖陵谷變
遷、今古殊、其形勢者在頗多、此
湖閑塞亦未可知也、今茲升信欲

碑而以存故、事遠未詢余、余向還
鄉尋此湖、恐昔賢之遺跡湮滅、終
無聞、有志未果、今聞之、喜甚、因
語之、梅宮祠官橘經亮以古学
鳴于世者也、遂相共贊其事、請
正二位權大叙言行右大将花山
藤公以大伴家持鄉遊覽之地、九
大字、遂刻石立圓山之巔、圓山乃
布勢湖西南一小山也、大伴氏之祠

至今猶存矣後世習熟故之學者
必有考於斯云享和二年五月十
八日

山有香謹識

一 飯久保古城

南条保内飯久保村あり

中丸三十五間許南北十一間程禁より本
丸まゝ二十所程ありと云某州少々ありし
け城まゝ麻野中誓りしりし里人傳りし

時代詳ありし

中村より凱寧石出令件より引しき希し石質し

又ふりしと云りし玩弄の具は好まの人相ありし

し

一 阿尾古城

八代庄阿尾村あり

大正の頃菊池伊豆守入道閑月居住し中丸
長四十間半幅十間程けりし其倉ありし
と云りし二ノ丸も四十間ありしと云りし

四十石余、幅二十石余あり、東南のる海を以て
海崖高く海より凡十丈あり、北戸を
平地とし、其より五町程のる、富し
作物出ありし

一 森寺古城 日所森寺村あり

本丸十七間、北間斗二の、早間竈五二八丸、
程あり、本丸西戸の幅三石、長七石、余の馬場
あり、け場を、長澤越前より、時代も

詳み、凡を富を、めり、式り、長重部
筑前守居候の、内苑助め、攻色居さ
し

一 荒山古堡 代尾前向村小滝村領あり

菊地入道用月梅より、又、去正年中由依孫命
温井湯前三宅備後越後勢七印卒、森中の公
免度浦八二千石、松屋、押亭、船、お上り、石部山、入
荒山の出物、を、梅、より、之、

一 汐池

南条保内蒲田村あり

山の谷間へ湧きまゝとくらの池より塩が出蒲田村
神代村より湧き出る塩は海へ流るるに西南の凡
そ塩味濃く北風の日に淡きし海へ入程
一里十八所許の如きといふの時代より今も
半とまじり

本草綱目食塩の条に池澤山崖或は井塩ありと云
亦大和本草にも塩の出所を記し又寛保の頃
江戸の人米山翁より里人談に云陸奥国合津岩塩より

弟澤への辻邊より里越より山の麓より大塩と云
岩杉より五里余は所川底の潮の泉大小二ヶ所あり大木を
割く底より桶乃やくく泉をかくは本草未塩
の類に山岩の如くは潮を汲く塩は民家七八十軒
皆塩を産するに地より海まで四日許りなきは
又上野より日光山の北七十里の栗山より温泉ありは所乃
山の洞ありは涌き皆熱し塩もくその供食物の
つくりあがるとは塩の産所と云

一 巖屋 イハヤ

同郷泉村より

山のぬき雲の五間程幅二尺程の穴ありて岩屋
と唱ふに穴乃内は護摩壇としかかきしき
やあまの人工のあん穴とるゆのとも来由をきか
り

一 座輪梅

同村より

天満宮社の内より一層の梅ありて一
のさつ花するゆに座輪梅とよ名なるハさきの梅と

ソの梅ありて一葉もむらさきを實せしむる
ゆのこけ梅とよ

一 朝日山観音

同郷朝日村より

寺に上日寺といふ言案あり白風年中の同隣
なりといふ山林寺近し寺此境ぬき木の根吉し
圍ニ丈八尺作長ハ山寺らもあらん

一 伊島

ハ代々湯村より

海の中より出る多し用廻らさず昔より伊勢
より來由とて下付村と純浦の界とせり
純浦の地は五所程し

大坂 二上迄あり

太田村より國分村に越、岩冓の間あり又砥所郡
婦負郡に大坂とあり何の處と名所と定む
か

二 風穴 六代迄字は村あり

山の尾海岸より穴の口六尺許奥行六尺斗
あり右ま風穴と名風の有無といふ

一 窟 口は大境村あり

海端の崖の向あり奥へ十上り程前口入
三丈程あり中より四方の祠あり是をきり
姫の明神といひ傳ふる 徳昔人十位はふり

外より竹の葉より海より穴見の葉よりし自我の産
しるはりし

一 あがら嶋 口庄安村あり

海の中にある島し長九十九坪幅三十一程あり

島北より一だみの本と根の末生してあり

一 布統海 南条保内より海し

窪村より十二所村の間ゆえの深と浅をわけて布統
村より湖を布統の海も 城の湖もいふしと
わらわら田のゆへ長島村幅十二所ありん
而く長短あるも 小見町の橋より流出りし

新千載を 民部公為藤郎

新助彦彦 布統の河沖はわはちのりし

多幸七まけさる末も布統の海の吹らぬ凡の色とそしるる

続法古拾遺 俊成卿
うらしてまらふうらへありてのしみの水うらみりる

家集

汝の心は水のこまろくも 始て入りの水なり

貫之

一 八宮法親皇御墓

日郷大境村あり

山中ありてむしりて 里人大墓とらる

後醍醐天皇初八宮御眼法親皇元弘年中

訖中へりりあり事 二上庄上野村横館塚碑

銘とてしりり上野村横館塚 館と垣とてし後高

岡極楽寺とてしりりありて 莫即りありけり

とて詳みりてけり大墓と 八宮の墳墓なりと

一 多柘圃

二上庄より南条保内の間とてなり

二上庄太田村より少見まゝの間とて古柘圃あり

後とよきありむしりて 田子の白菴のをりて 海の

とてしりりあり

後醍醐天皇 多柘圃や江の左にありてしりりあり

前関白太大臣

一 奈号海

大袋庄放生津より二上庄六波村まゝの間とてい傳

り 放生津所より西方と奈号所とてなり

全葉

あつてしりりありてしりりありてなりとてしりりあり

根元太大臣

續後撰冬

湊川をくくりし能の心かか人ほげくおろり

長方

日意

奈具の海をくくりし舟の行すよめ思し人の心もとぬる飛

後中御言俊忠

續あり

月出のしるしをくくればこの心もたもくくしあまのほろり

藤原光俊朝臣

續千載

奈この浦よと海りよもれかあまの地もくくし仲海もくく

後三幸院

續後拾遺

奈このほよあめまをくくし湊川こよひとほろり

前中御言基良

新千載秋

奈この浦よと海りよもれかあまの地もくくし仲海もくく

俊成

日意

奈この浦よと海りよもれかあまの地もくくし仲海もくく

法橋顯昭

新續あり

奈この浦よと海りよもれかあまの地もくくし仲海もくく

伏見院

奈具の入り大奈具堀に村屋に村あり湖とよみ致生
津の湖つらきし海もくく

一射水川

奈川の流の末上奈具所村湊の処しるしは
け渡昔にたあしとよみは村の人なり
下奈具のしるし

一 高岡町

往古、関野といひ、処々々々、と云ふ郭外、上岡村、下岡村
あり、國祖瑞竜公清居城の地、人衆六千軒、うぶび、戸臨
一、く、高塚の南、堂、福、輪、一、良、ユ、七、亦、不、く、か、く、ま、あ、り、し
山海、ち、う、く、あ、り、新、の、あ、ま、ま、で、日、毎、又、先、後、を、争、ひ、を、云
々、く、市、を、作、り、又、産、物、多、く、諸、山、を、あ、り、あ、り、と、云、ふ

一 古津城

慶長九年、初、瑞龍公清居、立、ま、り、一、日、の、年、一、二、月、
富山の津城、火、災、あ、り、し、け、法、城、の、内、に、修、ま、り、し、し、り、
り、

る、同、十、九、年、五、月、津、城、を、一、の、い、り、ゆ、一、え、む、七、年、一、の、
毀、可、多、く、し、り、と、云、ふ

一 櫻馬場

古城の東南あり

長、三、百、向、兩、傍、の、埒、を、築、く、櫻、を、植、の、い、り、し、慶、長、の、頃、
に、始、ま、り、し、り、也、其、後、微、妙、に、吉、野、山、の、埒、を、築、き、
植、の、い、り、し、り、し、り、枝、葉、着、く、茂、り、毎、春、む、の、如、
く、遠、近、を、始、と、し、株、の、高、の、い、り、し、り、詞、多、く、騷、人、を、さ、す、時、に、界、平、
の、津、代、を、一、の、い、り、し、り、一、碎、く、流、し、唱、し、り、り、海、家、を、志、し、
一、流、の、を、一、の、い、り、し、り、一、希、代、の、難、道、し、

一 津旅屋

古城の南より

元和六年

織母公津之より江戶津迄あり

山根

この山根にとも園あり古来無き也

松雲公津代元禄年間より津旅館より



一 瑞龍寺

禪宗 高岡山より

正保二年

瑞龍公為津追福津建之 明暦元年

津再建の時唐佛の新造也 大現達磨文珠

普賢并十六羅漢像あり 七堂備あり

塔頭 東漸院 法性院 林洞庵 蓮台庵

一 御墓

禪宗

繁久寺

此寺守山あり海老坂の繁久寺より高岡より

瑞龍公より津旅詣あり 寺より正保二年より

内河よりあり津旅詣の寺よりあり

一 蘭野神社

一 我久身神社

一 福荷社

神職從五位上 蘭越後守

瑞龍公津旅願所より 正保二年より 津旅記例

年しけきより山敷本所寺にありて何と云ふ
一 浄土宗 馬口所ありて
一 極楽寺 浄土宗 馬口所ありて
守山極楽寺といふ関寺、八宮御眼法皇也、浄土宗八
代所古境村ありといふ

一 國守内藤彦助名順字果仁街之等、佳名ありて
累世の医家ありて世々業を傳へて其の室に事向
病てある事も其男貞禰碑に建て祀りといふ

彼邱内藤先生墓
内藤君諱順初名宣男、字子卿、歸彼邱、本姓
埜村氏、俗稱彦助、業醫、考諱先難、歸東
鼻、此尾崎氏、世系載在家譜、東鼻君
有三子、伯惟德、字君輔、次清纒、字香
庵、次君也、君輔無子、故立君為後、君
少遊學京師、繼君輔之志、能備業、
勵力、凶幾名聞於四方、善起怪病

奇疾、於是乎、世或稱之有神驗焉。
實北列、方技家巨擘也、是以遠近
抱疾者、皆拊髀接踵於其門、無虛
日矣、為人穎敏、博涉群籍、苟善詩
文、多所著、哀藏於冢、頤抱博物
之癖、募覓玉石刀劍之類、討其所由
以為愉焉、性素嗜酒、雖有不容於此
者、恬然不屑、怡然自立、嗚呼哀哉
罹疾之日、自知不可起、先死三日、託伯

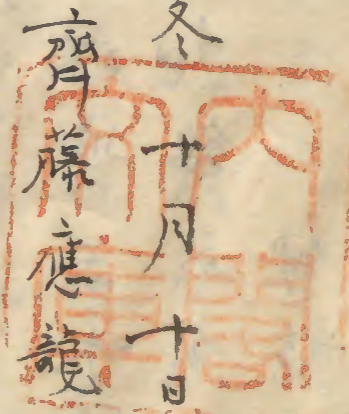
虎以後事、為避法、溢自謚曰天民居
士、以享保十九年、甲寅六月望生、寬
政壬子十二月既望、卒于家、年五十
九、葬妙國寺、先塋之次、配谷內氏、
生一男二女、長伯虎、名履吉、一塚本
藩醫官、次藤宗中、次適三木伯道、
伯虎立石表其墓、乞銘於余、銘曰
蛟蜃之精、浮越海濱、神彩吁愛、
於時屈伸、起死回生、仁守斯人

春秋窳窳、名長石浪、竟留貞珉、

千古翻翻、

寛政六年歲在甲寅冬十月十日

大聖寺侯侍醫 齋藤應龍 謹撰



一日宮古城 法日庄橋下糸村はあり

神保長識居住のよりいひ傳へ、中は東西並に、
間南北七間南のせしあり、東西十間、南北六二間、
南の方に小治尾とて、治尾とてあり、亦危小

治尾とて、治尾とてあり、亦危小、
天正年中

上杉謙信のころより、治尾とてあり

一放生津古城 大袋庄

神保城、高野屋信のより、中は南北七間、西方、
十間、東方、十間、十間、十間、十間、東西二十間、
東北の方、十間、十間、十間、十間、十間、

北条相模守高野の代、一、後、右、城、遠江、寺、時、宣、
の、寺、遠、た、ら、し、え、弘、三、年、五、月、鐘、倉、城、七、の、時

北条朝の運七高直とくも中々修理亮の時朝
昔は脈やうく境多る郷の昔庫助貞時ハ以時旅生津
此城を守り多る其夜城を火とし毎々妻を妻女
こもふ海中に沈没も一族普代の輩に城あり
七十九人爲死をとり

一 古館 上庄池田村あり

三谷宗朝居位より東西大間南北三十二町
と一葉刈山あり

一 古館 倉垣庄願海寺村あり

一 寺法民部丸居位より一町田島あり
一 同 清井庄小泉村あり

寺法牛一物居位より一町田島あり

一 太閤山 倉垣庄尾川村領

前後より山の東より東西三十二町南北十二町あり
高き六尺餘の封あり太閤未嘗か富山陣の時
けり津島の陣ありといひ伝ふ土封の内勅使

塚のくわさきあり〜 ねねの古あり

二 塚古域 二上原ニ塚村

け村元川の西岸〜 後、又千保川しけ塚の
名致遠江守を城する〜 元弘の乱、鐘原も
亡し国侍あり〜 不教記せし〜 一族も孝子果れ
た〜

一 鷹寺大佛 大袋原小杉三村あり

高々宗鷹尾山蓮王寺往昔ハ七尊伽藍あり〜

塔頭七十二院あり〜 弘仁年中百合若大長
サ〜 丸〜 丸〜 丸〜 の為ニ建〜 丸〜 丸〜 丸〜 天正年中
上杉謙信増山の城く攻めし〜 時堂幸伊園
境七〜 行基芥の作佛六の河海院の妙く〜 寺
た右の山手足跡〜 といえ文二年順生〜 寺
築心者修造〜 安置せし〜 弘仁五のサ
〜 十強〜 丸〜

一 田原森太夫御の石塔 旧寺あり

長ク五尺四寸墨石一尺七寸四方次、圓石月廻

五尺より五輪にもわたり文字の城... 見ざる者郷
の石塔... けり

一 十三塚 信口庄橋下栗村

山のぬま十はけくまひ... 西にあり... 古来
何れより... 津をきりて

一 三十三塚 倉垣庄中老田村

田畔... 二並ひ... 其中十七ヶ出將塚と
り... 塚大きき... 古い... 新多の土の首塚...
好ま... けり

一 三島野 東室郷二村 堀内村の向ふあり

往昔公家方の領あり... 三島野と傳へ...
籬のまはり... 野あり... 田畠... 名...
二ヶ所... あり... 野の跡... 残る

修治遺秋 前内庄清葉町

三島野の清葉... 跡... あり... あり...
新修あり

面影をほのぼ... 跡... あり... あり...
新修遺冬 考家郷

三島野や... 跡... あり... あり...
あり

新羅寺

貝寺

いふ所々部の家々をいふに、清光寺にありて、其の由

一番神堂

清光寺あり

堂の寺尾後、四地ありて、け村、日蓮宗中興の祖師

日隆上人誕生の地とて、徳永年中上人如光寺と

ふを建立ありて、ては、中光寺の多同、け村あり

一番神堂あり

甲塚のいふに

東条郷市井村あり

は、処々古事隠里とて、里人のいふに、け村ありて、

乃、節塚ありて、其の由、け村ありて、け村あり

け村ありて、け村ありて、け村ありて、け村あり

け村ありて、け村あり

梯田大明神

東条郷串田村

大同二年の御清し、け村ありて、け村ありて、

け村ありて、け村ありて、け村ありて、け村あり

け村ありて、け村ありて、け村ありて、け村あり

里人は〜昔津田村と園車池村との間の谷
大いなる池ありは〜池に大蛇住〜
野人村女〜吞〜一縣是、考ふや
哉〜よりあるは〜
女の子〜梯蛇の咽〜
〜水ようがけふ〜里人村老四方〜
娘の半張る〜梯の爲る害せし〜
のいける恩を謝〜
社と建〜し池のぬ〜大蛇とひ〜水は

田〜田〜田〜
田〜田〜田〜

一 蓮華寺の石塔

二上庄蓮花寺村

真言宗華嚴山蓮花寺、高七尺、案の石塔、
五輪、栴ひ〜
或、伊豆守源仲綱朝臣の墳墓、
三位賴政の嫡子〜
〜自害〜のひ戒名と蓮華寺とらひ

胃肥ほちち糸綱原家め世くろく〜誠中ノ守護〜
つゝのひ七文の菩薩のたぐい一年の坊のちを造〜蓮華
寺と号〜石塔を供養〜正福と号〜のちと

放生律の浮 大袋倉

放生律ノ海濱〜人家之軒の窓より〜
富商とあま〜も多分其儀と業〜海者多きは
他の増とも寄〜東より〜茶号の入は〜
たが塘圃〜の浮連とも放生律所の中はけ浮

〜り流る川の橋あり橋のり〜
此向と泉の〜河より〜海海濱矣
海、生んと〜海も〜橋は〜遠き〜出るあり
〜外と〜外と〜橋は〜中橋
西の橋と〜む〜此沼の水底と集る泥土
〜湖を村しの田の養いと〜
此項水練〜土を取ぬ後五七人も泥電のたぐ
〜器と多所と〜かく〜
〜ん〜はけ潮中と〜社と

害ちりものを衆人謀ふ湖邊村に於て一々多し
土居ともいふ一島を築く水神に御受あつて凡は
まがらうを修む功をあたふ島に一祠を建
る水神と衆人供物盛くを備り之島に六月
十七十八日御農あつて舟を航して祭禮を催
し衆人ともいふ一島を築く一都て田をうま
おひあつて衆人を泥亀と唱へて一々多し
まがらうの島

一 清泉 二上庄西藤嶺村

沼田の中は五尺四方許いりると唱へあり
池あり又旧村の外に田の中あり四方許の池あり
常に涌き出り清泉と出りし

一 宗祇塚 二上庄下馬田村あり

いづれ少しありしと宗祇法師の古墳と世人
いひ侍り宗祇法師の紀列の人とて飯沼氏諸人
とて侍り連宗とて一或は香花とて一人
ある又慶二年七月大寺の田原の北多家軍を

くし身まかりし

とくがしを雀の井のりももまとのあり必とて恨ふ

と辞世と孫のしし墳墓は小田原湯本村湯山早

雲寺のありし時雨塚のりもまよし墓の碑は

青流洞ニ幽祇空居士

とありし又時雨塚のりも

世のありし時雨のりも

と詠せしし時雨のりも又箱根山の

下りし時雨のりも自画自讃の遺像と世のあり

よかるを常ふも是なるし時雨のありし

とありし或人の云徳義ありし世のありし

とありし世のありし世のありし

世のありし世のありし世のありし

とありし世のありし

け句のありし世のありし

何神のありし世のありし

白山のありし世のありし

天てん神の作の湯山

つるひに絶列唯あ山あり

の書に山ありとまゝなるも

なす所くの發句はしるすの此あたり二年と

煙をまきしと好士うけ過とうけふれしともの悲心

あふ山人の後後うけしと家々築く追葉の

あひとのべはるまわあ人又極翁の山人柴屋軒

長長に歌中の人しる

一 猿 彦 二 上 三 守 山 所 村 七 所 吸 草

先年より 市吉例のしるすに母年正五月全儀

きたり 津殿よりあつと猿と舞りしとあつと市吉彦、

流り又なまししとあつと舞もしとしるす 猿彦の名

と七とる

一 絶 跡 山 東 多 郷 水 戸 田 村

山中の往昔絶跡現社ありしとあつと絶跡山

りありあつと社ありし時の寺院ありしとあつと

はつとあつとに林をな海の法あり

神火の宮

南条保成耳痛村あり

村民神火の宮と唱へ是尊山宗を又高倉院の陵に
りゆりあり申す也 詳なきを

八宮旧跡

二上庄上野村

後醍醐天皇八宮御眼法親皇元弘年中北条氏の
逆乱より中絶中へ逃りしものいへり射水郡野村の里
にあり是庄のいりりしを詳記す

男いさむいさ野村の野村を名の庵より移りしは

と承りしものいへり村民に量容を教へしもの宮を造
いし家の事ありしに後より屋敷しものいへり高岡寺の地所を
開きしものいへりしもの野村の一向宗道場長福あり
と代碑と建しに在宮ありと記す尊教を

八宮 樸館塚

維昔醍皇率天育民夙夜憂懼政在
陪臣誅逆未遂反蒙其塵皇后皇子
東遭西逃是此儲王避于越瀨縣曰
射水牧野之村日暮每投野寺之詢

九僧肅拜、侍養惟勤、寺曰長福、今猶現
存、富農坪内、呼子集孫、伐木架寢、繞行講明、
痛窄質短、故曰撲館、縣之事王、竭誠
罄歡、王乃削髮、永入梵伴、為民祈
穰、每水每旱、極樂之寺、王所製、王
遂薨、此、民泣潛々、番六、埋館追初
戀遠、五百年後、民念益厚、封之十
尺、永以不躁、研石書事、亦願不朽、
民之歸仁、自古悠久、嗚呼王澤共塚

壽、民之奉王、與澤皆荷、武藏海

保昇撰

文化七歲次庚午孟冬法外金森瑜

謹書 上牧野村長福寺建上

一 信吉の松 大袋庄 津幡江村よりあり

正徳享保の頃より津幡江村若林元慶の連
歌と好く遊心ししや此より以て村に禪林
ありし者道和尚の寸とありし者
詠とありし者ありし者ありし者
武蔵小治原同

三
之月 實隆卿の門より一葉ありてしる 晩
辛うおふい 佳吉の海より 小ねを 引きし 波
浜より ばくは 一世の 中点と 知りし 詠
草を 一つの 瓶に 納め 我の 前記 佳吉乃
内より あらう 清浄乃 地を 掘瓶を 埋之
上より 小葉を 並べ 植へ 佳吉の 清浄地 比し
けり 其の 柄一様 是れ 之れ 其の 名を 伴ふ 蝶
も かくも 赤色の 物と 思ふ かな
此の 葉の 一葉 佳吉の 清浄の 地を 掘り 埋めし 詠

山花似雲

見人の 心なき みの 山花 似雲 花の 心なき

野鶉

凡そ 野鶉の 野の 名は 野の 名は 野の 名は

壽雲

あふ 雲の 心なき 山の 雲の 心なき 雲の 心なき

七ノ

海の 雲の 心なき 山の 雲の 心なき 雲の 心なき

須藤末山

在所詳なり

夫木集

永持郷

谷の戸よりあけりて一峰をまゐるの山は此れなり
け初よりいよいよ二上山あけりて名所とせりて或は
功は部のもろいなり功は部はけりて谷もあけり

越乃海

越前浦より越前浦越前浦とて越前海といふなり
の初めよりあけりて北海の廣く作在なり

当し

源頼政

大伴元正のいふ所の越前海の名とて
新屋拾遺

前考後為魯郷

越前海なる浦の海はあけりて

学生浦

少又所よりあけりて池田新村なる
英遠浦と書まはる

下葉
けさきの口なる

古江村 とい村が

わ月雨のふるおの村のまきむら 軒ましかるおの津浪
けす新築造りありしとて何處と定むるに 此の
市流村のぬ田の名は古江といふをむしりて村主人
おしりしとて

不湖

倉屋西高本村あり

長さるる家 幅りたりしをともしとて上りなくとも
濁りたる 鴉水鶴 秋を 雁見たり 故郷

わふ新しけふ 宿は郡も 死く 不湖ありしとて
まけ不湖ありしとて 高本あり

伏赤湊 二上庄伏赤村

赤川おろ部川の保川屋合け屋へ出たり 此のふか
舟の出入船に 伏赤村の清水の舟ありしとて 浦方を
そとて物の上は日くしとて 二上庄の
此の舟船ありしとて 入来りて 舟の地とて 舟ありしとて
しり

一 糸島村舟渡 二 上村の下

糸島村川の流末し高岡しを古心所伏母見よしの
伏末し清くをくく流るる勢あり南の江

一本野の舟渡 高岡本所より

小糸部川し西ハニ上山をくをくまか見あつを
くまトし

本所を渡舟ありく小糸部川の舟を川上あり官藏
弟横に去久しをくし去久し伏母浦の舟あり

川の東山所より

一 六渡寺舟渡 二 上庄六渡寺村

六川小糸部川舟渡の渡りし六渡寺村を
東山所より西ハ古心所伏母し

一 能所村舟渡 二 上庄能所村

六川の流しむくけあり船水川よりあり高岡
舟を渡りの渡りし明暦年中長らせらるの渡り

そそ免のひしは洪水を破損しなしく
一 延宝三年七月の橋を破損したまひし
宝曆二年九月の洪水を破損しなしく
舟橋とあるし

一 射水郡、小川、新川の流未ありし別の方河
と稱するが、つれの川も流川も、湯流も、
都て水々流く水気もよき、砥波郡、川上
が、小川もよき急瀬も、石も多し、夏月など

容易に舟も流し、川物も又甚多し、川上と
山と、射水、海と、陰陽の地をいふ、川も

一 勝島寺 二上江古国府あり、号雲竜山

往昔佐渡守ありし親孝聖人の開闢し、其の
以て順徳帝の勅あり、殊勝聖願具行寺と号し、北陸
七列の同宗の寺、皆け、兵行寺、漸磨寺、
と、とも、紙中一む、同族の寺、よ、力寺、庵と

新都内外の事をも、他の寺庵詢次まゝの
如き事しゆ、二所推括別を、先臣以下数多家を
世々々々、如堂庫裏、三葉四葉、二葉をび、皆一乃
小嶋の山、由來此地を中級言大伴家持卿の官給
乃此地、海岸と隔る事四五所、山根あり、
界又、山前の人家、多き寺入り居地、先前
寺領ホと云ふ、國家殊々傳来
如増、所屬、のりし事、小縁記あり

雲龍山勝興寺

祖師聖人創建一宇於佐渡當時
順德皇帝勅賜號殊勝誓願興行寺
且賜御筆額法嗣信念上人初名
彦成王實、帝第三子也上人特窮
真宗安心之蘊奧以故、祖師許以
北陸七州之化度法孫信興上人、
而相承後、屢罹兵燹、幾至荒廢、於
蓮如宗師八世深察時運、令遷之於
中躰谷郷至實如宗師九世繼、祖師

志以北陸七州緇隸屬此特約法
三章以為永制如其支院典章及屬
派法令悉統于此天正九年由懈谷
鄉遷於今地舊奉食祿二百石某年
某太守附與稻米年五百石綿々至
于今日也嗚呼宗派弘化福應隆々
于盛哉今聊識其一端于此云爾

越中古國府役僧

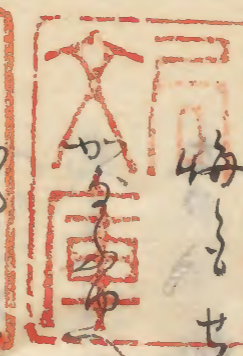
往昔安養寺とて寺ありて石部郡懈谷郷
に在りて半石部の部より記せり或書ふ云安

養のえま新川郡朽坂の神社大別ありし
大僧正隆範阿闍利の時弘長初年の以て親
鸞上人寂しり年頃ありて寺院滅亡の
事最明寺入道越中へ移りていりて雪達もむ
らひし大坊安養寺とありて寺の至り志
らひの寺はいひの寺僧止りて院屋に至り
其夜盜賊大勢方丈に入時の看主得法寺より
僧部が切殺し侍僧等四五人を縛りて財宝
奪ひて去り寺中の僧侶地裏に隠れし賊人

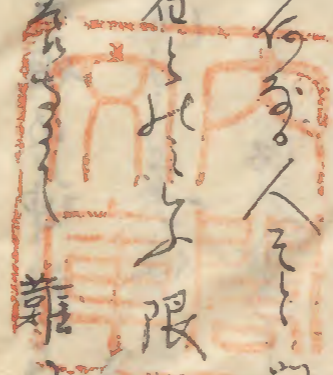
と挿く其堂は栴向や^な坊主のり入^りし^り故^こ
音^ね明^{めい}寺^じ入^りたを^を晝^しめ^め聞^きふ^ふ事^じ急^いし^し然^{しか}も^も盗^{とう}人^{にん}未^まだ
白^{はく}状^{じやう}し^し更^{さら}の^の最^{さい}明^{めい}寺^じ入^りさ^さふ^ふ衆^{しゆ}多^たき^きに^に以^もて^て放^{はな}ち^ちし^し
以^も時^じ笛^{ふえ}一^{いっ}管^{ぱん}綿^{わた}の^の守^{しゆ}袋^{ふくろ}に^に寺^じの^の尺^{しゃく}の^の入^り笛^{ふえ}ハ^ハ縁^{えん}
城^{じやう}と^とふ^ふ僧^{そう}取^とり^りし^し珍^{ちん}宝^{ぼう}を^を後^ごに^に古^こ国^{こく}府^ふ勝^{しょう}島^{じま}寺^じに^に傳^{でん}
へ^へて^てあ^あり^りと^とふ^ふ深^{ふか}ね^ね鈴^{すず}々^々持^もつ^つの^の入^り笛^{ふえ}を^を脱^{だつ}輝^きと^とり^り
名^なあり^りと^とし^し綿^{わた}の^の守^{しゆ}袋^{ふくろ}に^に青^{せい}木^{ぼく}丸^{まる}尺^{しゃく}と^と寺^じの^の取^とり^りの^の取^とり^り長^{なが}の
平^{へい}住^{じゆ}と^との^のの^の入^りを^をと^とり^り入^り保^ほの^の持^もつ^つの^のの^の取^とり^りを^を持^もつ^つ
ん^んと^と恐^{おそ}れ^れあり^り宮^{みや}の^の細^こめ^めよ^よと^とす^すめ^めし^しと^と同^{どう}じ^じと^と

鎮^{ちん}守^{しゆ}妙^{めう}倉^{そう}姫^{ひめ}の^の神^{かみ}符^ふを^を細^こめ^めと^と持^もつ^つし^しと^と丸^{まる}内^{ない}
ま^まと^と思^{おも}ひ^ひ傳^{でん}し^し平^{へい}住^{じゆ}の^の文^{ぶん}音^{おん}人^{にん}と^とし^しと^と人^{にん}の^の同^{どう}じ^じを^を重^{じゆう}
宝^{ほう}と^とし^しと^と主^{しゆ}婦^ふと^とし^しと^と頻^{ひん}と^とし^しと^との^のあ^あり^りと^と大^{だい}
太^{たい}刀^{とう}を^を佩^{はい}き^き月^{げつ}色^{しき}の^の馬^ばの^の乗^{のり}馳^ち來^きり^り丸^{まる}内^{ない}の^の警^{けい}と^とし^し
て^て鞆^{たもと}の^の内^{ない}に^に懐^{くわい}中^{ちゆう}へ^への^の入^り守^{しゆ}袋^{ふくろ}を^を奪^{だつ}ひ^ひ取^とり^り丸^{まる}内^{ない}
と^と持^もつ^つて^て姫^{ひめ}の^の神^{かみ}符^ふを^を鬼^{おに}入^りり^り丸^{まる}内^{ない}の^の取^とり^り身^み心^{しん}
4⁴に^に亂^{らん}し^し三^{さん}四^しに^に亂^{らん}し^しと^と死^しを^を忘^{わす}れ^れて^て入^りる^る是^{こゝ}に^に上^{じやう}馬^ば
国^{こく}の^の勢^{せい}時^じ止^とり^り漢^{かん}倉^{そう}の^の作^{しやく}者^{しや}に^に安^{あん}養^{じやう}寺^じ僧^{そう}徒^だの^の
妻^{さい}礼^{らい}と^と讀^よみ^み寺^じに^に破^は却^{てつ}し^し寺^じ領^{りやう}神^{かみ}符^ふを^を持^もつ^つと^と

後收一依野原在御一諸世に宛行る 最明寺入致
是より先上列と画の一時年四十洋の男曰く
張江を五ひの身住所もいふをた下親く流り
ゆ一彼男最明寺に内より恙く徳母一人をたは



御一のあり止にちき争ひま一あり
悔もせんは一平くぬのく一と忠言理の
かふ事一少なる人そ一問のた上野国に井田
ありの者これより限ありんはたかたの別
うり増あきま一難うあ一彼男の未死と知



乃一感尋ねらば一依野原世にありと

